

「命を守ろうプロジェクト」支援チャリティー

『2014 拳真祭』ワールド F.S.A 空手グランプリ

同時開催！

ジャパンオープン全日本 RF 武道空手道選手権大会

フルコンタクト空手・ケイオス防具付空手(顔面有りポイント制ルール)
グローブ空手ルール・型・総合格闘技 RF 空手道ルール

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

諸兄におかれましては空手道の修行、道場の発展の為、御尽力されている事とご推察いたします。

さて、毎年恒例となりました秋の行事『14 拳真祭』は、“空手のルールは様々あれど空手はひとつ”のスローガンの元、様々な空手ルールをお互いが認め合い学び合うという基本理念に今年も共鳴を頂き新たなルールの全日本大会との共同開催が実現し、『2014 拳真祭』ワールド F.S.A 空手グランプリ& ジャパンオープン全日本 RF 武道空手道選手権大会を国立代々木競技場第二体育館にて開催する運びとなりました。

又、今大会は海外からの選手を多数招聘して開催される国際大会でございます。従来のフルコンタクト空手ルールとケイオス(防具付空手)ルール、グローブ空手ルール、型、バーリトゥード RF 空手道ルール(総合格闘技ルール)の全5部門にての開催となります。

つきましては新部門も増え、参加道場もさらに大きく広がった今大会趣旨に是非御賛同頂き、多くの皆様のご参加・ご協力いただきます様お願い申し上げます。

敬具

平成26年 6月 吉日

大会最高審判長 羽山 威行

大会審判長 内田 和久

大会実行委員長 佐藤 真之

大会副実行委員長 西川 享助

大会運営委員長 松下 昌之

大会副運営委員長 末村 淳

主催 世界 F.S.A 空手格闘技連盟
共催 日本武道総合格闘技連盟
協力 国際 F.S.A 拳真館空手道連盟
開催日 2014年9月23日(火・祝)

カテゴリー ① フルコンタクトカラテルール
② ケイオス(防具付空手)ルール
③ グローブ空手ルール
④ 型
⑤ 総合格闘技 RF 空手道ルール

時間	開場	午前9時00分
	受付	午前9時00分～午前9時30分
	開会式	午前10時00分
	表彰	コート表彰式
場所	国立代々木競技場 第2体育館 〒150-0041 東京都渋谷区神南2-2-1 TEL 03-3468-1177	
交通	JR原宿駅下車、地下鉄千代田線 神宮前駅下車、各徒歩3分	
参加費用	◎フルコン・ケイオス防具付空手・グローブ空手	¥7,000
	◎総合格闘技R F 空手道ルール	¥6,000
	◎型試合のみ 小・中学生	¥5,000
	◎型試合のみ 一般	¥6,000
	◎ダブルエントリー	¥8,000
	※型とフルコン、型とケイオス防具付空手、型とグローブ空手ルール、型と総合格闘技R F 空手道ルールのダブルエントリーが出来ます。	
	※ダブルエントリーの選手は申込書を種目別に必ず二枚提出してください。	
	※試合が重ならない様に調整しますので、振るってご参加下さい。 (1～3位入賞者にメダル、その他全参加者に参加賞状・パンフレット含む)	
申込み締切り	2014年 8 月 25 日 (月) 必着 申込書不足分はコピーして下さい。	
申込み方法	所定の申込書に記入捺印の上、参加費と共に現金書留で郵送してください。 参加費は団体責任者が一括して参加申込み用紙を、現金書留にて締切日までに郵送してください。申込み用紙のみ、参加費のみの申込みは受けません。	
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 選手は事前に健康診断を必ず受診してください(診断書提出不要)。 ② スポーツ保険に各自加入してください。(保険は4月での更新の場合が多いのでご注意ください)また、試合当日は万一のため健康保険証の持参をお勧めいたします。 ③ セCONDは2名とし、セCONDパスを大会当日発行します。 ④ セCONDは正装にて。また、過激な応援はご遠慮ください。 ⑤ 試合中負傷または事故が生じた場合、主催者は一切責任を負いません。 ⑥ 何らかの理由で参加不可能となった場合必ず大会事務局まで連絡してください。 ⑦ 大会事務局に納入した参加費はいかなる理由があろうとご返却出来ません。 ⑧ ゼッケンは大会当日、各団体一括でお渡しします。 ⑨ 審判員・スタッフには昼食を用意致します。選手は各自ご用意ください。 ⑩ 出場選手の肖像権は主催者に帰属します。各種報道機関等が取材する場合がありますが、映像や画像が放映、掲載される場合があることをご了承ください。 ⑪ 女子クラスの道着の下へのTシャツ着用は、白色のみ認めます。 男子クラスのTシャツ着用は、禁止となります。 ⑫ 会場の駐車場は使用できません。近隣のコインパーキングをご利用ください。 ⑬ 三位決定戦はありません。 	
送付宛先	〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 4-28-2 第二高円寺 603 号 「FSA 拳真館大会実行委員会」宛て TEL 03-5378-6036 ※転送の場合は留守電にメッセージを入れてください FAX 042-638-0859 携帯 070-5029-1110 (佐藤)	

■部門および種目

『2014 拳真祭』ワールドFSA 空手グランプリ

★フルコンタクト空手

01.	幼年男子	13.	小学4年生男子上級	25.	高校男子 軽中量級 60kg 未満
02.	幼年女子	14.	小学4年生女子	26.	高校男子 重量級 60kg 以上
03.	小学1年生男子初級	15.	小学5年生男子初級	27.	マスターズ軽量級(40歳以上 70kg 未満)
04.	小学1年生男子上級	16.	小学5年生男子上級	28.	マスターズ重量級(40歳以上 70kg 以上)
05.	小学1年生女子	17.	小学5年生女子	29.	一般女子 軽量級 (55kg 未満)
06.	小学2年生男子初級	18.	小学6年生男子初級	30.	一般女子 重量級 (55kg 以上)
07.	小学2年生男子上級	19.	小学6年生男子上級	31.	一般男子初級 軽量級 (70kg 未満)
08.	小学2年生女子	20.	小学6年生女子	32.	一般男子初級 重量級 (70kg 以上)
09.	小学3年生男子初級	21.	中学生男子軽量級 45kg 未満	33.	一般男子上級 軽量級 (65kg 未満)
10.	小学3年生男子上級	22.	中学生男子中量級 55kg 未満	34.	一般男子上級 中量級 (75kg 未満)
11.	小学3年生女子	23.	中学生男子重量級 55kg 以上	35.	一般男子上級 重量級 (75kg 以上)
12.	小学4年生男子初級	24.	中学生女子		

※小学1～2年男子の初級はオレンジ帯(9級)まで、上級は青帯(8級)以上。

※小学3～4年男子の初級は青帯(7級)まで、上級は黄帯(6級)以上。

※小学5～6年男子の初級は黄帯(5級)まで、上級は緑帯(4級)以上。

※一般男子初級は緑帯(3級)まで。上級は茶帯(2級)以上。

★ケイオス防具付空手

36.	幼児男女混合	42.	小学3～4年生女子	48.	マスターズ軽量級(40歳以上 70kg 未満)
37.	小学1年生男子	43.	小学5年生男子	49.	マスターズ重量級(40歳以上 70kg 以上)
38.	小学2年生男子	44.	小学6年生男子	50.	一般女子
39.	小学1～2年生女子	45.	小学5～6年生女子	51.	一般男子 軽量級 (70kg 未満)
40.	小学3年生男子	46.	中学生男子	52.	一般男子 重量級 (70kg 以上)
41.	小学4年生男子	47.	中学生女子		

★グローブ空手ルール(高校生以上 40歳未満)

53.	超軽量級 (55kg 未満)	55.	軽中量級 (65kg 未満)	57.	中重量級 (75kg 未満)
54.	軽量級 (60kg 未満)	56.	中量級 (70kg 未満)	58.	重量級 (75kg 以上)

★型

59.	小学1～2年生男女	62.	小学5～6年生女子	65.	マスターズ男女混合 (50歳以上)
60.	小学3～4年生男女	63.	中学生男子	66.	一般女子 (16歳以上)
61.	小学5～6年生男子	64.	中学生女子	67.	一般男子 (16歳以上)

*参加人数によりクラスの統廃合がございます。

*計量時に規定の体重をオーバーしている場合は失格となります。

■部門および種目

「ジャパンオープン全日本R F 武道空手道選手権大会」

- ・少年部ジュニア選抜 R F エキスパートルール*試合時間：3分・グラウンド時間：50秒（2回）延長あり
- ・青年男子：試合時間：予選（1回戦）7分・準決勝、決勝10分・グラウンド時間：2分（制限なし）
- ・マスターズ：試合時間：決勝まで全試合5分・グラウンド時間：2分（制限なし）/顔面パウンドなし
- ・女子：試合時間：決勝まで全試合7分・グラウンド時間：2分（制限なし）/顔面パウンドなし

★総合格闘技R F 空手道ルール

68.	小学生 22 k g 以下級	78.	中学生女子 45 k g 以下級	86.	マスターズ(35歳以上)60 k g 以下級
69.	小学生 30 k g 以下級	79.	中学生女子 55 k g 以下級	87.	マスターズ(35歳以上)66 k g 以下級
70.	小学生 26 k g 以下級	80.	中学生女子 55 k g 超級	88.	マスターズ(35歳以上)73 k g 以下級
71.	小学生 34 k g 以下級	81.	青年男子 60kg 以下級	89.	マスターズ(35歳以上)81 k g 以下級
72.	小学生 38 k g 以下級	82.	青年男子 66kg 以下級	90.	マスターズ(35歳以上) 無差別級
73.	小学生 42 k g 以下級	83.	青年男子 73kg 以下級	91.	女子 48 k g 以下級
74.	小学生男子 42 k g 超級	84.	青年男子 81kg 以下級	92.	女子 52 k g 以下級
75.	中学生男子 50 k g 以下級	85.	青年男子 無差別級	93.	女子 57 k g 以下級
76.	中学生男子 60 k g 以下級			94.	女子 63 k g 以下級
77.	中学生男子 60 k g 超級			95.	女子無差別級

— 試合規約 —

『2014 拳真祭』ワールド FSA 空手グランプリ
【フルコンコンタクト空手ルール】

相手の勝者は、一本勝・判定勝ち・相手の反則ないし失格による勝ちにより決定される。

試合時間	一回戦～準々決勝	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼年、小学生、中学生、高校生クラス 本戦(1分30秒)→延長(1分)→マスト方式による判定(体重判定は行わない) ● 女子・マスターズ・一般色帯クラス・一般上級クラス 本戦(2分)→延長(1分)→マスト方式による判定(体重判定は行わない)
	準決勝、決勝戦	再延長1分あり→マスト方式による判定(体重判定は行わない)

1. 一本勝ち(技あり2本で一本) 反則箇所を除いて、突き・蹴り・肘打ち等を瞬間的に決め、相手を3秒以上ダウンさせるか、相手が試合続行不可能となった場合。
3秒以内に立ち上がった場合は「技あり」。
上段蹴り、胴廻し回転蹴りがノーガードの相手に的確に当たった場合は技あり、触れただけや、押したような蹴りは技ありを取らない。
2. 判定基準
 - A. 定められた時間内で勝敗が決着しない場合は、有効打数優勢に試合を進めたか、減点等の総合判定を主審、副審が行い、過半数を支持された者が勝者となる。
 - B. 一回戦～準々決勝戦までは延長戦でマスト方式、準決勝・決勝戦は再延長戦でマスト方式により勝敗を決する。体重判定は行わないものとする。
 - C. 「注意」「減点」「技あり」の力関係
注意2＝減点1 減点1を受けている場合は負けとなる。
減点1<技あり 減点1を受けていても技ありを取っている場合は勝ちとなる。
注意4で失格。
 - D. 本戦での注意、減点は延長戦には持ち越されない。
3. 反則
 - A. 反則は悪質なものを除き、注意が与えられ、注意4で失格となる。
 - B. 拳・肘による顔面殴打。
 - C. 金的蹴り、貫手による顔面・首・頭突きの攻撃。
 - D. ダウンした相手に当てたり、蹴ったとき。
 - E. 以上の他審判員が特に反則とみなしたとき。
 - F. 相手をつかんだ時。
 - G. 主審判断により、特に悪質な試合態度とみなされた時。
 - H. 掌底または拳で押すこと。
 - I. 相手を抱えたままの攻撃。先に抱えた方が反則(相手の脇に腕を入れての攻撃も不可)
 - J. 一般部は膝蹴りの際の瞬間的なヒッカケは可、但し連続で行うことは、不可。
小中高校生のつかみ・ヒッカケはすべて反則。
 - K. 技のかけ逃げ、自ら技をかけているように見せ、倒れ、相手に攻撃させない。
 - L. 頭をつけての攻撃はバッティングの反則
 - M. 幼年・小学生の上段膝蹴りは安全性考慮のため反則。中学生以上は認める。**
4. 失格
 - A. 試合中、審判員の指示に従わない時。
 - B. 出場時刻に遅れたり、出場しないとき。
 - C. 見合ったままでの状態で1分以上経過した時。
 - D. 粗暴な振るまい、悪質な試合態度とみなされたとき。
 - E. 注意を4回受けた時。
 - F. セCOND及び選手が相手選手や特に審判に対してヤジった場合、その選手だけでなく団体を即刻退場とする。
 - G. 軽量級、中量級で体重オーバーの際、減点か失格。
5. 正当な理由なくして試合を放棄した時。但し下記の場合は例外とする。
 - A. 大会主治医の診察を受け、その結果、試合続行不可能と見なされた時。
 - B. 試合直前または試合中、本人に関する不慮の事故(家族に何か不幸が生じた場合など)が発生し、審判長・審議委員長が協議の上、退場を許可した時。
 - C. 正当な理由なく試合を棄権及び放棄した場合は、違約金10万円を申し受けます。
 - D. 交流試合の為、審判によって下された判定に対する審議等の申し入れは一切できないこととします。

6. 防具

- A. 幼年・小学生、中学生、高校生クラスはヘッドギア、拳サポーター、レッグサポーター、ファールカップ着用、中学生以上は膝サポーター着用を義務付ける。
- B. 中学・高校女子はイサミのチェストプロテクター着用(小学校女子3年生から6年生は任意で着用)。
- C. 一般色帯・一般女子・マスターズはパンチンググローブ(親指のみフィンガーカットグローブ可。オープンフィンガーグローブ、拳サポーターは不可)、レッグサポーター、ファールカップ着用を義務付ける。
- D. ヘッドギアは主催者側で用意致しますが、その他の防具は各自で用意してください。
*(拳・足 甲サポーターは中身がスポンジ製で表は布製のものを使用)。
- E. 各クラス共テーピングは可。過度のテーピングは不可。バンテージの着用は不可。
- F. レッグサポーター内のプラスチックパットは禁止。つけて試合を行ったら失格。
- G. 一般上級クラス出場者は素手素足のうえファールカップ着用のこと。

【ケイオス防具付空手ルール】

- 1. 防具 スーパーセーフ面又はKプロテクター・胴・拳サポーター・レッグサポーター・ファールカップ着用(女性もアンダーガード)。(サポーターは布製のもの)(パンチンググローブ不可、手に軍手・バンテージOK、ニーサポーターは任意)
- 2. 試合時間 2分間(小・中学生・マスターズ・一般女子は1分30秒)延長戦1分(1ポイント先取り)
- 3. 1本 的確な打撃によるダウンまたは5ポイント1本先取。
- 4. 技あり プロテクター着用部位(上段・中段)への的確な打撃(突き・打ち・蹴り)をポイントとする。(連打を認める・掌底・バックハンド・ローキックを認める)ただし、ローキックについてはフルコンタクトカラテと同基準(ダメージ)とする。(ジュニアについては直突きのみとし、ローキックも禁止とする)相打ちについては双方にポイントを与える。また、足払い・カッティングキックからの瞬時の極めはポイントとなる。
- 5. 判定 ポイントが多い方を勝者とする。また、ポイントに差がない場合、明らかに攻撃の多いものを勝者とする。
- 6. 反則 膝蹴り、故意の投げ、つかみ、倒れた相手への直接打撃、背部・金的への攻撃アッパー、執拗な掛け逃げ
- 7. その他 注意2回、場外2回で相手に1ポイントを与える。著しい反則攻撃、逃げ回るなど闘う意志のないものは失格とする。

【グローブ空手ルール】

- 1. 防具 グローブ、ヘッドギアレッグサポーター、ニーサポーター、ファールカップ、マウスピース着用。空手衣着用。
 - 2. 試合時間 2分間1ラウンド
 - 3. 1本 1本勝ち(KO)。突き、蹴りによる攻撃で3秒以上のダウン、又は、2度の技あり。
 - 4. 判定 技あり → 突き蹴りによる攻撃で一時的にダウンし、3秒以内に立ち上がったとき。または、倒れはしないが、一方的な連打をあげたとき。ドローの場合1分のインターバルののち1分間の延長戦。副審(2名)およびレフリースによる旗判定とする。(本戦もレフリースを主審とする)
 - 5. 反則 肘による顔面殴打、金的けり・頭突き・投げ、ダウンした相手への攻撃、背中の攻撃、両手で掴んでの膝蹴り(首ずもう禁止)、度重なる場外。
 - 6. 減点 選手が規則に反したときはポイントを減ずる。
①反則を行なった時、注意を与え、注意2回で減点1、減点2で失格となる。
 - 7. その他 試合はトーナメントとする。バックハンド、片手で掴んでの膝蹴りを認める。
- ☆超軽量級(55Kg未満)・軽量級(60Kg未満)・軽中量級(65Kg未満) 14オンス
☆中量級(70Kg未満)・中重量級(75Kg未満) 重量級(75Kg超) 16オンス

【型ルール】

- ①正確さ(手の握り・目付き・下半身のふらつきなど)
 - ②気合・気迫
 - ③優美さ
 - ④緩急
 - ⑤難易度 の5項目から判定をする。判定は審判3名による点数方式(30点満点)とする。
- ※創作型は禁止

REAL FIGHTING Official rules

第1条 試合概要

第1項

試合はパンチ、キック等の打撃技、投げ技、関節技、絞め技によるノックアウト及びギブアップにて勝敗を決する総合格闘技ルールとする。

第2条 階級制(ウエイト制)

第1項

試合は、部門別体重による階級制とし、各クラスのウエイトリミットは以下の通りである。

(1)青年男子の部・マスターズの部

1. 60キロ以下級
2. 66キロ以下級
3. 73キロ以下級
4. 81キロ以下級
5. 無差別級

(2)女子の部

1. 48キロ以下級
2. 52キロ以下級
3. 57キロ以下級
4. 63キロ以下級
5. 無差別級

第3条 試合時間

第1項

青年男子の部 予選を7分間、本戦の準決勝と決勝を10分間とする。

マスターズの部 全試合5分間で行う。

女子の部全試 7分間で行う。

第2項

グラウンド時間は2分間、回数無制限とし、2分経過後には開始線に戻り、スタンドから再開する。

第3項

主審の「時間ストップ」のコール、又は、ジェスチャー以外は時間を止めない。

第4項

主審の「グラウンド」コール後、グラウンドの時間とする。グラウンド時間内に選手がスタンド状態となった場合には、主審が「スタンド」とコールし続行する。

第5項

RFルールでは延長戦は行わないものとする。(=マスト制)

第4条 服装

第1項

服装試合は安全性と公正を期するため、禅道会技術部の認める市販の清潔な空手着または柔道着、柔術着を着用する。

第2項

禅道会会員は禅道会技術部指定の空手衣のみ可とする。

第3項

男子は空手衣の下(上半身のみ)には何も着用してはならない。

第4項

袖等を短く切ったり、変形させる等あらゆる改造を禁止する。

※始めから、もしくは試合において原型を異したもの(切れたりしたもの)も次の試合で使用することを禁ずる場合がある。

第5条 防具

第1項 試合は以下の防具の着用を義務づける。

1. ヘッドギア
2. マウスピース
3. オープンフィンガーグローブ
4. ファウルカップ(男子のみ)

※ヘッドギア、オープンフィンガーグローブ、ファウルカップは空手道禅道会技術部指定の競技品を貸し出す。
※オープンフィンガーグローブはシュートコミッション認定のものであれば、個人品でも使用可能。
マウスピース、ファウルカップは市販の物で良い。

第2項

防具を改造、変形させたり、傷を付けたりしてはならない。

第6条 皮膚等へのワセリン塗布

第1項

出場選手は皮膚の保護の為、ワセリンを目の周囲に塗ることを認める。
尚、顔以外の部分に油脂類及び、化粧品類、整髪料などを身体や頭髮に塗布することを禁ずる。

第7条 バンテージ及びテーピング・サポーター等について

第1項

バンテージ・テーピング・サポーター等の使用及び、指定のグローブを除くいかなる物も手に装着することを禁ずる。
但し、サポーター及びテーピングは大会副審判長もしくは代行で指名された者の許可を得れば使用を認める。

第8条 試合場

第1項

試合場は空手道禅道会技術部の指定及び認可する赤と青のマット、もしくは畳で構成された物とする。

第9条 審判

第1項

試合は以下の要員を配置する。

※なお、各要員は禅道会技術部主催の技術講習会及び合宿等で行われる審判講習会において受講し、合格した各クラスの審判認定員が行なう。

(1)主審1名 (2)副審2名 (3)監査1名

第2項

主審: 選手の安全確保を最重要視した、レフリングの義務を負い、試合に対して進行決着させる権限を有する。

第3項

副審: 選手の安全確保を重要視し、主審の公正明大なレフリングの補助を行なう。

第4項

監査: 主審の補佐役として、審判講習を受講し、審判技術に習熟したものを「監査役」として配置し安全性、公正性を第一義とした試合の進行に際し主審、副審の進行等に不備が生じたと思われる時は助言や審議の相談役を行なう。

第5項

試合終了の判定時は、監査と副審の2名の計3本の旗数により勝敗を決する。引き分けはない為、2本以上旗があがった方の判定勝ちとなる。

第6項

試合間の旗使用(一本、技有り、反則、場外反則、場外、未確認等)は主審、副審が行ない、監査は試合終了の判定時以外は旗を置き、安全性と公正性に基づいた試合進行の補佐役に従事する。

第10条 勝敗の判定

第1項: 一本勝ちの定義

1. 3秒以上のダウン。
2. 6秒以上の戦意喪失。
3. 絞め技、関節技によるギブアップ。
4. 技有り2つによる合わせ一本。(マスターズは技有り 以上で一本となる)
5. 危険防止の為、主審判定によるテクニカルノックアウト。
6. 相手選手が反則を4回、もしくは悪質な反則により失格した場合。
7. 相手選手が場外反則を7回した場合。

第2項: 技有りの定義

1. 3秒以下のダウン(マスターズの部を除く)。
2. 6秒未満の戦意喪失。
3. 相手選手が反則を3回、もしくは悪質な反則により主審が技有りとした場合。
4. 相手選手が場外反則を5回した場合

第3項: 場外反則による優勢勝ち

相手選手が場外反則を3回行った場合は、技有りに次ぐポイントとなり、技有り以上の差が無い場合には、どんなに試合を有利に進めていても場外反則を3回している選手の負けとなる。

第4項: 優勢勝ちの定義

試合終了時において「一本」「技有り」「場外反則3回以上」等の差が無い場合は、副審2名と監査1名の計3名による旗判定により勝敗を決する。

※判定の基準は、攻撃による試合全体の主導権(＝リングゼネラルシップ)をいかに掌握したか判定するものとする。

第11条 試合において認められる攻撃

第1項: スタンド状態での有効な攻撃

1. 打撃技 : パンチ、蹴り、膝蹴り、頭部と顔面以外への肘打ちと頭突き
2. 上記以外の技 : 投げ技、倒し技、絞め技、関節技

第2項: グラウンド状態での有効な攻撃

1. ポジション・押さえ込みの時
顔面以外への打撃攻撃(スタンド状態に準ずる)
顔面への横からのパンチ(後頭部をマットまたは床と挟み込まないパンチ)
絞め技、関節技
2. ノンポジション・ガードポジションの時
顔面以外への打撃攻撃(スタンド状態に準ずる)
顔面へのパンチによる攻撃、絞め技、関節技
3. ハーフグラウンドの時
顔面以外への打撃攻撃(スタンド状態に準ずる)
顔面へのパンチによる攻撃、絞め技、関節技

第12条 状態の定義

第1項: スタンド状態の定義

体の足の裏以外がマット(床)に触れてない状態をいう。但し、タックル等を失敗して膝や手が床についている場合はグラウンド状態と見なす

第2項: グラウンド状態の定義

足の裏以外の部分が継続的にマット(床)に触れている状態をいう。

第3項: ポジション・押さえ込みの定義

相手をコントロール出来る姿勢、位置を意味し、ベルトラインより上体を制した場合をポジション、横四方、上四方、縦四方、袈裟固め、バックマウントを取った状態を押さえ込みという。

※亀状態の定義は、下になっているものが体の正面を床に向け片手(肘・腕)でも床又は相手に着けている状態を言う。

※亀状態のものを攻撃する場合はポジションを取った状態に準ずる。

第4項: ハーフグラウンドの定義

双方がグラウンド状態とスタンド状態に分かれている場合をいう。

※下の者が打撃攻撃をする場合は、スタンド状態で認められている打撃攻撃に準ずる。

※マスターズ及び女子の部の試合では、上下関係なく、頭部・顔面への打撃攻撃は一切禁止。

第5項:

タックルに対してのカウンター攻撃はスタンド状態に準ずるが、一度切った後、及び、グラウンド状態からのタックルに対しての頭部・顔面への蹴り(膝蹴り)攻撃は禁止する。

※ポジションを取っている場合(横四方固め・縦四方固め・上四方固め・袈裟固め・バックマウント等の押さえ込み等)においては頭部・顔面に対する攻撃は垂直攻撃以外(床とパンチで頭部、顔面を挟まないように)のパンチによる連打攻撃が認められる。(顔面への肘打ち・膝蹴り頭突きは禁止)

※双方上も下も無い状態(足関節を取り合っている状態等)ではスタンドの攻撃に準ずるが、マット(床)と挟み込むように蹴ってはならない。

腕拉十字固め等でキャッチしている場合は、ポジションを取っている状態と同等と見なし有効な打撃もこれに準ずる。

但し、キャッチが解けた場合には、双方上も下もない状態と見なす。

第6項: 打撃以外の攻撃

3本以下の指を決めること以外の全ての絞め技、関節技を認める。

グラウンド状態とスタンド状態の接点において、主審のコール「グラウンド及びスタンド」が一時的間に合わなかった場合(素早いタックル等によりグラウンド状態になり「グラウンド」のコールする前に、グラウンド状態では反則となる攻撃をした場合等)には、選手は自発的にルールを順守しなければならない。

※認められる攻撃を違反した場合には故意、過失を問わず反則とする。

第13条 場外

第1項: 場外の定義と進行

赤マット(畳)外側ラインを境に内側を場内、外側を場外とし、場外に体の半分以上が出た場合には試合をストップし中央で「場外反則」のコールの後に再開する。

但し、立ち組技において技の流れでライン際の微妙なところでグラウンド状態になってしまった場合やグラウンド状態でのラインの外に出た場合には試合進行の妨げにならない場所までは続行し、試合進行の妨げになる場所まで来た時は、主審の判断で「動くな」、もしくは「ドントムーブ」とのコールで選手の動きをストップし試合場内に「動くな」とコールされた状態のまま移動し「続行」のコールにより続行する。

第2項: 場外反則

1. 打撃を嫌がって、故意に場外にエスケープした場合
2. 連打により場外に押し出された場合
3. 組み技を嫌がって、故意に場外に出た場合
4. グラウンド状態で故意に、試合場マットの場外及び進行不可能な場所までエスケープした場合

※上記の行為を行なった場合には、場外反則がコールされる。

試合時間内に、一本勝ちや技有りがない場合には、場外反則を3回以上行なった選手の負けとなる。

5回で相手に技有り、7回で相手の一本勝ちとなる。

第14条 反則行為

第1項: 反則攻撃

1. 顔面への頭突き、肘打ち
2. 金的攻撃
3. 噛み付き
4. 脳天、後頭部、延髄、脊柱、脊髄への打撃攻撃
5. 脳天、後頭部から落とす行為(背中から落とす行為は認める)
6. 3本以下の指を決める行為
7. 頭髪、喉、粘膜部分(目、鼻、耳、口、肛門等)への掴みや攻撃
8. 帯で首を絞める行為
9. グラウンドの攻撃に関しては第11条に準ずる
10. ダウンしている者への攻撃
11. ヘッドギアやグローブを掴む行為
12. その他非道徳的なこうげき等

第2項: その他の反則行為

1. 審判の指示に従わない行為
2. 応援者のヤジ等の非道徳的な行為
3. その他大会運営に支障をきたす行為

※反則行為があった場合には、主審が1度目で「反則1」というようにコールし、3回で減点（相手に技有り）、4回で失格(相手に一本)となる。

又、通念上悪質な反則があった場合には1度目の反則であっても主審の判断により減点や失格にすることができる。

※武道として模範となるような礼儀ある試合を心がけて頂

第1条 試合概要

◆打撃技・投げ技・固め技・関節技・絞め技によるノックダウン及びギブアップにて勝敗を決する。

第2条 体重・クラス

第1項

EX-rule 全日本大会時のカテゴリ

※低学年・中学年・高学年(高学年女子)中学生(中学生女子の部)体重別制。
 低学年(1・2年生)― 22kg 以下級、26kg 以下級、30kg 以下級、30kg 超級
 中学年(3・4年生)― 26kg 以下級、30kg 以下級、34kg 以下級、34kg 超級
 高学年(5・6年生)― 34kg 以下級、38kg 以下級、42kg 以下級、42kg 超級
 高学年(5・6年)女子の部― 34kg 以下級、38kg 以下級、42kg 以下級、42kg 超級
 中学生女子の部― 40kg 以下級、45kg 以下級、50kg 以下級、50kg 超級
 中学生男子の部― 50kg 以下級、55kg 以下級、60kg 以下級、60kg 超級

第2項

EXPERT-CLASS 選抜大会時のカテゴリ ※体重別制

小学生男子 小学生女子	22kg 以下級 26kg 以下級 30kg 以下級 34kg 以下級 38kg 以下級 42kg 以下級 42kg 超級
中学生男子 中学生女子	50kg 以下級、60kg 以下級、60kg 超級 45kg 以下級 55kg 以下級 55kg 超級

※階級より体重がオーバーした場合は減点・失格となる。(大会時までの体重増加を考慮して申込を行う。)※第8条参照

第3条 試合時間

第1項

EX-rule 試合時間:3分 グラウンド時間:50秒 2回

- 全日本大会時、延長戦は行なわない。選抜大会時には引き分けの場合、2分の延長戦を行う。(再延長は行わない)
- 主審の「時間ストップ」のコール又はジェスチャー以外は時計を止めない。
- 主審の「グラウンド」のコール後グラウンド時間となる。
- グラウンド時間終了後は開始線に戻り、スタンド状態からの再開となる。
- グラウンド時間内に選手がスタンド状態となった場合には、主審が「スタンド」とコールし続行する。

第4条 服装

第1項

試合は RFK 技術部の認める清潔な空手衣、柔道衣、柔術衣を着用する。

※男子は空手衣の下(上半身のみ)には何も着用してはならない。

第2項

袖等の加工を禁ずる。

また試合において、原型を異した物(切れたりしたもの)も次の試合に使用することを禁ずる場合がある。

第5条 防具

第1項

試合は以下の防具の着用を義務付ける。

1. スーパーセーフ面・ニューヘッドギア空または K プロテクター(MW 製)
2. 拳サポーター
3. ファウルカップ(男子のみ)
4. 脛サポーター
5. ヒザサポーター(任意指導)

第2項

RFK 協会登録選手は指定の競技品のみ可とする。

第3項

その他防具を持参する者は、指定品と類似している物で、大会審判部の許可を受け、認められれば使用できる。

第4項

防具を変形させたり傷を付けたりしてはならない。

第6条 皮膚等への塗布

第1項

出場選手は身体のあらゆる部位への油脂及び、化粧品類、整髪塗料の塗布を禁ずる。

第7条 バンテージ及びテーピング・サポーター等について

第1項

バンテージ・テーピング・サポーター等の使用は認めない。
但し、サポーター及びテーピングは大会副審判長もしくは代行として指名されたものに見せて許可を得れば、その使用を認める。

第2項

バンテージやナックルパート(テーピングを拳に巻くこと)及び指定の拳サポーターを除くその他のあらゆる物を手に付、装着することを禁ずる。

第8条 計量

第1項

大会当日に体重計量を実施する。

第2項

リミット(出場階級)からオーバーしたら失格となる。

第3項

脱衣しての計量を認める。

第4項

選手・また団体・道場責任者は選手の身体安全上、出場階級に合わせた減量は一切禁ずる。

第9条 審判

第1項

試合は以下の審判を配置する。(主審は判定時決定権がない)
なお、審判員はRFK協会主催の審判講習会を受講した者が行なう。

- 5 審制 (1)主審 1 名 (2)監査 1 名 (3)副審 4 名

第10条 勝敗の判定

第1項

打撃技・投げ技・関節技による一本、又は見込み一本

第2項

旗判定による勝敗の決着。

第3項

全日本大会は(延長戦がないため)、マスト判定(本戦完全決着)とする。また選抜大会時には引き分けの場合、延長戦を行う。その際、延長ではマスト判定とする。(再延長戦はなし)

第4項

判定時に双方に技有り以上の差がない場合、(または反則 2 回未満・場外反則を 3 回未満)、判定の基準は下記のとおりとなる。

1 リングゼネラルシップ(ダメージを含む攻撃による試合全体の主導権をいかに掌握したか)

第11条 一本、技有りの定義

第1項

一本の定義は下記の通りになる。

打撃技:

突き蹴りによる 3 秒以上のダウンで一本勝ち、フラッシュダウンで見込み一本。

関節技:

腕ひしぎ逆十字固め、腕絡み(キムラロック、V1 アームロック、ストレートアームバー)の 4 種による一本勝ち、又は見込み一本。

絞め技:

バックポジションからのスリーパーホールドの 1 種による一本勝ち、又は見込み一本。

※三角絞めやオモプラッタ等の足によって極める関節技・絞め技のいっさいを禁ずる

第2項

技有りの定義は下記の通りになる。

- 主審判断によるスタンディングダウン(打撃攻撃によるダメージ)または概ね3秒以上の連打攻撃)
- 反則行為を2回おこなってしまうこと。またそれに相当する反則行為
- 場外反則を3回おこなってしまうこと。

第12条 寝技の定義(グラウンド時間等)

第1項

足の裏以外が地面に着いた場合(投げ、転倒、ひきこみ等)に審判の「グラウンド」コールで寝技になる。

第2項

寝技の時間は50秒2回とする。

また主審のグラウンドコールから5秒以内に両選手が立ち上がった場合にはグラウンドの回数に含まれない。なおグラウンド状態での打撃攻撃の一切を禁ずる。

第3項

グラウンド(50秒)2回以降は投げてもグラウンドにはならない。主審の「待て」で開始戦から再開する。

第13条 場外

第1項

場外の定義と進行

赤マット(畳)外側ラインを境に内側を場内、外側を場外とし、場外に体の半分以上が出た場合には試合をストップし中央で「場外反則」のコールの後に再開する。

但し、立ち組技において技の流れでライン際の微妙なところでグラウンド状態になってしまった場合やグラウンド状態でのラインの外に出た場合には試合進行の妨げにならない場所までは続行し、試合進行の妨げになる場所まで来た時は、主審の判断で「動くな」もしくは「ドントムーブ」とのコールで選手の動きをストップし試合場内に「動くな」とコールされた状態のまま移動し「続行」のコールにより続行する。

第2項

場外反則(下記参照)

1. 打撃を嫌がって、故意に場外にエスケープした場合
2. 連打により場外に押し出された場合
3. 組み技を嫌がって、故意に場外に出た場合、もしくは出した場合
4. グラウンド状態で故意に、試合場マットの場外及び進行不可能な場所までエスケープした場合
上記の行為を行なった場合には、場外反則がコールされる。3回で相手に技有り、4回で相手の一本勝ちとなる。

第14条 反則行為(故意過失に係らず反則とする)

第1項

反則行為(下記参照)

1. 頭突き
2. 金的攻撃
3. 脳天、後頭部、延髄、脊柱、脊髄への打撃攻撃
4. 脳天、後頭部から落とす行為
5. グラウンド状態でのあらゆる打撃攻撃
6. 第12条で認められた以外の関節技・絞め技攻撃
(三角絞めやオモブラッタ等の足によって極める関節技・絞め技の一切を禁ずる)
7. 指を極める行為
8. 頭髪・喉・粘膜部(目、鼻、耳、口、肛門等)への掴みや攻撃
9. 帯で首を絞める行為
10. ダウンしている者への攻撃
11. セーフ面を故意に掴む行為
12. その他非道徳的な攻撃等
13. 審判の指示に従わない行為
14. その他大会運営に支障をきたす行為

※反則行為があった場合には主審が、

- 1回目で「反則1」というようにコール(判定時には加味されない)
- 2回で減点(相手に技有り)、
- 3回で失格(相手に一本)となる。

また、通念上悪質な反則があった場合には1度目の反則であっても主審の判断により減点や失格にすることができる。

「命を守ろうプロジェクト」支援チャリティー

『2014 拳真祭』ワールドFSA 空手グランプリ ジャパンオープン全日本RF 武道空手道選手権大会
参加申込書

大会最高審判長 羽山威行 殿

私儀、上記の通り相違がなく、また本大会のルールに従い正々堂々と競技することをここに誓います。万一試合中の事故、ケガがあった時、主催者側及び誰にも責任の所在を問うものでない事を誓約致します。

(未成年者の場合)保護者氏名 _____ ㊟ 日付 _____ / _____

(本人)氏名 _____ ㊟ 日付 _____ / _____

団体・道場名	代表者	印
道場住所 〒		
TEL	FAX	携帯電話
※(必須)PCメールアドレス		

ふりがな		性別 男・女	年齢	歳
氏名		昭和・平成	年	月 日
住所 〒		生		
電話番号		携帯番号		
身長	体重	学年		
cm	kg	年生		
級・段位	帯色	備考		
出場部門 フルコン・防具付空手・型 グローブ空手・総合格闘技 RF 空手道ルール	出場 種目番号	出場 種目名		
修行年数及び過去の大会入賞実績 (詳しく記載ください)		スポーツ保険加入チェック欄 (○で囲んでください) 未加入者は出場できません 有 ・ 無		

賛助用紙

「命を守ろうプロジェクト」支援チャリティー
『2014 拳真祭』ワールドFSA 空手グランプリ
ジャパンオープン全日本RF 武道空手道選手権大会

A 寄付ご賛助 (円) <— 円 10,000円 >

* ご寄付下さいました方は、大会参与としてプログラムの大会役員欄にお名前を
ご掲載させていただきます。

B 広告ご賛助 (円) 1. 1 ページ ¥60,000

* 右を参考にお決め下さい。 2. 1/2 ページ ¥40,000

なおプログラムはA4サイズです。 3. 1/3 ページ ¥35,000

4. 1/4 ページ ¥30,000

5. 1/8 ページ ¥20,000

(1～5の数字のどれかに○をつけて下さい。)

C 特別広告ご賛助 (円)

1. 裏表紙 (1ページ) ¥250,000

2. 表紙裏 (1ページ) ¥200,000

3. 表紙裏の隣 (1ページ) ¥200,000

4. 裏表紙裏 (1ページ) ¥150,000

5. 裏表紙裏の隣 (1ページ) ¥150,000

(1～5の数字のどれかに○をつけて下さい)

*特別広告は各1ページ、一名ずつですのでご注意ください。なお、ご賛助下さいました方は、プログラムにお名前を、また、特別広告ご賛助の方は、よろしければお名前とお写真、ご挨拶をご掲載させて頂きたいと思っております。

☆以上A、B、Cいずれかに○を付け、(円) 内にご記入の上、広告賛助にご協力下さいます方は名刺、版下、原稿(ロゴマークの有無に関らず対応致します)、手書きのメモ等をこの賛助用紙、及び現金と共に大会実行委員会まで現金書留にてご郵送下さるか、直接、支部長または道場生にお渡し下さい。その他、何かありましたら直接、大会実行委員会までご連絡下さい。

ご芳名 _____

ご住所 _____

TEL _____

国立代々木競技場第二体育館 地図・アクセス



国立代々木競技場 第2体育館

〒150-0041 東京都渋谷区神南2-2-1 TEL 03-3468-1177

※会場の駐車場はご利用いただけません。車でお越しの場合は必ず近隣のコインパーキングをご利用ください。